

JPFスーダン南部人道支援事業 複数年(3年:2009年4月～)事業目標

スーパーゴール(国際援助社会の最上位目標)
平和の定着を実現するための南部スーダンの安定と復興の達成

緊急支援の延長線上で開始される多角的な
プロセスにおける支援活動の必要性

(1) 人道危機の規模と国際社会における支援動向

緊急から初期復興に向かう流動的段階において、より深刻な複合的人道危機に逆戻りさせないための人道支援を継続する。
難民・国内避難民の帰還先の膨大なニーズの整備(基本的生活の保障)はますます重要になり、これに対応する。

プログラムにおける全体的な目標

(2) JPFとしての目標

スーダンの「平和の定着」の達成のために、複数年計画の中で、JPFおよびNGOが一体となった支援体制を構築する。
戦火で荒廃した土地の生活基盤を整え、難民および国内避難民の帰還を促進、帰還先コミュニティのニーズを継続して満たしていくことを、全体枠組みを通して目指す。
JPF事務局によるコーディネーション機能を最大限に活かし、全体枠組みと個別事業の位置づけを明確にする。
活動を通して培ったJPFとしてのプレゼンスの高まりを、現場でも日本国内でもより大きなスケールでのアドボカシー活動に活かす。

NGO間の連携の構築と協働

(3) JPF事務局が果たす連絡・調整機能

現地におけるセクターミーティング等にてJPFの活動をアピールしながら現地政府、他援助機関等との協調を進める。
JPF事務局員の定期的訪問(年に3回を予定)の機会を最大限利用しながら、政策・支援戦略レベルの連絡・調整の実施、他援助機関の動向把握、連携、情報共有を行う。
事業範囲を拡大しつつも、JPFとして一貫性のある事業と最終目標への到達努力を堅持する。

(4) JPF参加のNGO複数団体の活動内容

これまでの経緯ならびに今後に向けた方針

NGO、UN機関、および事務局から成る事業形成合同調査ミッション派遣(2006年5月)
NGO6団体で支援事業を実施・・・スーダン南部での帰還先コミュニティの基本的な生活基盤整備(2006年8月から2008年初旬)
活動開始に向けて立ち上がったワーキング・グループを通して、JPFスーダン南部事業の共通最終目標を設定
JPF全体としてのプレゼンス向上などにかかわる意見交換等を行いながら、南部スーダンにおける支援を継続

(5) 複数年事業計画

各団体活動内容(2009-2011)

上ナイル州、ジョングレイ州、東エクアトリア州、中央エクアトリア州で各団体が行ってきた事業成果を基に、帰還そのものの支援や、帰還民の受け入れコミュニティにおける支援として水・衛生、教育、保健衛生、生計向上などの課題解決を中心に事業展開していくことを計画している。あわせて、コミュニティの組織能力強化や国内避難民も含めた社会的弱者の保護等のソフト事業についても、必要に応じて、その実施を考慮する。

スーダンにおける包括的和平合意の締結と課題

20数年に及ぶ内戦を経験したスーダン南部では、2005年1月に締結された包括的和平合意(CPA: Comprehensive Peace Agreement)に基づき、目下、2011年に実施される南部帰属を問う国民投票までの6年間を移行期間とし、国家の再建に取り組んでいる。しかしながら、大量の国内避難民および難民の帰還にともなう食糧や基本的なサービスの不足は、未だスーダン南部において大きな課題であり、スーダン復興と平和の定着には、まだまだ継続支援が必要といえる。